

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	i
	イ
	ii
	オ
	iii
	ア
問二	
	涙
	目

問三	な
	じ
	み
	深
	い
	存
	在
問四	i
	寒
	気
	ii
	大
	勢

問五	④
	ウ
	⑦
	ア
問六	
	自
	分
	の
	体
	の
問七	
	エ
問八	
	イ
	ウ

問九	ウ
問十	
	ア

2

問一	1
	エ
	2
	ア
	3
	イ

問二			
く	揮	持	自
こ	で	っ	分
と	き	て	に
。	る	い	と
	得	る	っ
	意	能	て
	な	力	苦
	場	を	手
	所	じ	な
	で	ゆ	場
	暮	う	所
	ら	ぶ	で
	し	ん	は
	て	に	な
	い	発	く

38
39
40
41

		5		4		3							
⑥	組閣	①	提供	①	権利	①	キ	問八	1	問六	答え	問三	イ
66		61		56		51		優				問四	42
⑦	損失	②	領域	②	増加	②	ウ	れ			が	遺	
67		62		57		52		た			あ	伝	
⑧	忠誠	③	序列	③	解散	③	イ	も			る	的	
68		63		58		53		の		45	問七	多	
⑨	幹	④	車窓	④	下降	④	ク	2		46	ウ	様	
69		64		59		54		ウ		48		性	
⑩	移	⑤	非売	⑤	精密	⑤	エ	問九	ウ	49		問五	43
70		65		60		55		ウ		47		他	
								イ		50		の	
												能	
												力	
												で	44

(配点)

{ ①〔問一・四〕各2点、〔問五〕各3点、〔問八〕6点、他各5点 }
 { ②〔問一〕各2点、〔問二〕7点、他各5点 }
 { ③④⑤各2点 } 計150点

【解説】

1 青山美智子の『リカバリー・カバヒコ』（光文社）から出題しました。

高校に入ってから勉強についていけず、すっかり自信を失った「僕」は、家に帰る気になれず遠回りした公園でカバのアニマルライドが「バカ」と落書きされているのを見つけます。落書きを消してやろうと思った「僕」は、翌日ラッカーを持って公園に行きますが、そこで同じクラスの雫田さんと出会います。雫田さんとの会話を通じて「僕」の気持ちが少しずつ変化していく様子を読み取りましょう。

問一 B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 油性マジックで書かれた「バカ」という落書きを消そうとして、リユックからペンケースを出して消しゴムでこすっている場面です。「カスが生まれる」に対応するイ「ぼろぼろと」が入ります。

ii 「……カバだけに」は、雫田さんが「リカバリー・カバヒコ」という名前に「カバ」という言葉がかかっていることを言っているのですが、面白くないギャグのようになっていて、雫田さんも自信满满というよりは遠慮がちに言っている様子が読み取れます。したがって、オ「ぼそっと」が入ります。

iii 前後の「糸が」「ほどけていくように」と合わせて、ア「すずると」が入ります。

問二 B1 関係づけ

「ずんぐりむっくりのカバ」が「僕」を見上げる様子が書かれています。「ののまま」という表現から、ここより前に「カバ」の様子が書かれた部分があるということが想定できます。漢字二字という条件も合わせて探していくと、本文九行目に「なんだか漫画みたいな涙目に見えた」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三 B1 具体化

「カバヒコ」と慣れた感じで話しかけている様子や、その後「カバヒコつてね、すごいんだよ。…」と「僕」にカバヒコのことを説明する様子、あるいは「こんな地味な公園のぱつとしないカバ」と表現する様子から、雫田さんにとって「カバヒコ」がとても身近な存在であることがわかります。このことを念頭に置いて探すと、——線⑤の四行後に「昔からここにいる彼女にとって、カバヒコはなじみ深い存在なのだろう」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 A1 知識

同じ表記で二通りの読みを持つ熟語を答える問題です。

i 一つ目の文では「かんき」、二つ目の文では「さむけ」と読む「寒気」が答えになります。「かんき」と読む場合は「上空」や「流れ込む」、「さむけ」と読む場合は「風邪」や「お

それ・こわさ」などの言葉とともに使われることが多いことを覚えておきましょう。

ii 一つ目の文では「たいせい」、二つ目の文では「おおぜい」と読む「大勢」が答えになります。「たいせい」と読む場合は「試合」「決まる」、「おおぜい」と読む場合は「人」などの言葉とともに使われることが多いことを覚えておきましょう。

問五

A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。まずは辞書の意味を知っていることが重要ですが、辞書の意味を意識したうえで、その文脈ではどのような意味になっているか、ということも合わせて考えましょう。

④ 「怪訝」は「怪」が「あやしい」、「訝」が「いぶかしい」と読みます。どちらも何らかの出来事に対して納得がいかない、不思議に思う、という意味の漢字です。

⑦ 「鼻もちならない」は自慢げ、得意げな態度に対して不快に思う気持ちを表す言葉です。「鼻」は「鼻にかける」「鼻につく」など、自慢することやそれを不愉快に思うことに関する慣用句を多く作る言葉です。

問六

B1 具体化 関係づけ

線⑤には指示語が入っていますから、少し前の部分から指示内容を見つけておきましょう。「その手の話」は九行前の「都市伝説みたいなもん」を指しています。より具体的な

内容を探してさかのぼっていくと、——線③の二行前に「自分の体の治したい部分と同じところを触ると回復するって言われてるの」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七

B1 関係づけ 比較

⑥の四行後の「この言い方って、まるで中間テストが六位とか七位だったみたいなニュアンスだよな」が大きなヒントになります。普通に聞けば、六位か七位で五位以内にならずに届かなかった、という感じを起こさせる表現が入ることになります。したがって、エが正解となります。アでは見栄を張ったことになりませんし、イは六位、七位と離れすぎています。また、ウだとその後の雪田さんの「私なんて十位以内にも入ってないよ!」という反応と合いません。

問八

B2 理由 比較

「その言葉」とは、直前の「でも順位なんてさ、いつだって、狭い世界でのことだよ」という雪田さんの言葉を指しています。「いつだって」という言葉に注目すると、その言葉を聞いた「僕」が、中学時代の良かった成績のことをいまだに自慢げに語ったり、一方で今の自分の成績（雪田さんには本当のことを言っていないが）を必要以上に気にしたりしている自分の姿を思い知らされるようで「なんだか胸を突く」と感じていることがわかります。したがって、イとウが正解となります。ア「人並み外れた努力を必要とする位置まで落ちた」、エ「学校での成績をいかに上げるか」、オ「狭い世界から飛び

出して」がそれぞれ誤っています。

問九 **B1** 具体化 比較

「僕」はオレンジ色のラッカーでカバヒコに書かれた「バカ」を隠そうとしていましたが、たとえ隠れたとしてもその下には「バカ」が残ってしまうのだ、ということに気づき、一時しのぎで隠すのではなくきちんと消してあげようと考えています。したがって、ウが正解となります。ア「気づかない程度に隠すことはできるはず」、イ「きれいに隠して」、エ「『バカ』と書いた人を反省させる機会がなくなってしまう」がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 具体化 比較

登場人物の人物像・性格をつかむには、その人物に集中して発言（何を言ったか）と行動（何をしたか）を確認していきましょう。フルネームを覚えられていたことに驚いているくらいですから、「僕」と雫田さんはそれほど親しい仲とはいえません。そんな状態でも、雫田さんは「僕」に自分から話しかけ、カバヒコの話を教えています。また、話をしていくうちに「僕」は雫田さんと話すのを楽しいと感じ、会話にひきこまれていきます。以上のことから、アが正解となります。イ「二面性を持った」、ウ「異なる意見に的確に反論しつつ」、エ「相手が喜びそうなことを見抜いて」がそれぞれ誤っています。

2 稲垣栄洋『ナマケモノは、なぜ怠けるのか？』（筑摩書房）から出題しました。

「苦手なところで勝負しない」「得意なところで勝負する」という生き物の基本戦略を紹介し、動物と人間の違いにもふれながら、人間がどのように生きていけば良いかということについて、筆者が意見を展開しています。

問一 **B1** 関係づけ 比較

空らんにはまる接続詞を考える問題です。前後関係に着目し、それぞれのつながり方をおさえながら考えていきましょう。

《1》の前には自然界にさまざまな生き物がおり、それぞれ得意なところで暮らしているという内容があり、後にはその具体例が示されています、したがって、エ「たとえば」が入ります。

《2》の前には「個性がある」ということは、『差』があるということだという内容があり、後には「個性は努力だけでは変えられないときもある」と続いています。「も」に注目すると、情報をつけ足す関係になっていることがわかります。したがって、ア「しかも」が入ります。

《3》の前には「足が長ければ歩幅が大きくて速く走れるかもしれない」というプラスの内容があり、後には「重心が高くなるので、不安定になって、転びやすくなるかもしれない」というマイナスの内容がきています。したがって、イ「しかし」が入ります。

問二 **B2** 具体化 推論

「得意な場所で勝負」している例は、——線①の直前の段落に挙げられています。これらはすべて「自分の得意なところで暮らしている」例としてまとめることができます。設問に「ではなく」という表現を使うよう指示がありますから、「苦手な場所ではなく得意な場所で暮らす」という形にしておくといでしょう。また、「得意な場所」とは自分の能力を發揮することができる場所ですから、その内容もあわせてまとめます。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問三 **B1** 具体化 比較

——線②の内容と合っているものを選ぶ問題です。チーターがどのようにして「個体差はあるが基本的にどの個体も足が速い」という性質を持つに至ったのかが書かれている部分を探しましょう。——線②からは少し離れています。——線④前後にその内容が書かれています。チーターにとっては足が速いことは「答え」なので、種全体としてそのように進化してきた、ということですが、イが正解となります。ア「速く走る努力をすることになり」、ウ「自分より足が速くない動物をねらうようになる」、エ「群れから追い出され」がそれぞれ誤っています。

問四 **B1** 置換

オナモミが性質の異なる二つの種子を持っているのは、「答えがわからない」からです。もう少し詳しくわしく確認すると、「早く芽を出す」性質と「遅く芽を出す」性質とを比べたときに、周りの環境を考えるとどちらが得をするかわからないということになります。このことについて一言で言い換えているのは、——線④の前にある「遺伝的多様性」です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 **B1** 理由 関係づけ

チーターとは異なり、人間には足が速い人も遅い人もいます。それは、人間にとって「全員の足が速くなること」のメリットがあまりなかったということでもあります。このことについて⑥以降に説明が書かれています。⑥の五行後にあるように、「他の能力で足が遅いことはカバーできる」からこそ、人間は「足が速い」方向への進化をしなかった、といえます。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六 **B1** 関係づけ

⑤の直後に「個性はない」とありますが、どんなものが「個性のないもの」なのかを考えましょう。個性がないということは差がないということであり、「どの個体も同じである」ということになります。直前の「人間の目の数は、二つである」もそうですし、少し前に書かれた「ゾウはみんな鼻

が長い」「首が短いキリンはいない」などもその例です。チーターの例もふくめ、このことは——線④の七行後に「答えがあるときに、そこに個性は必要ないのである」とまとめられています。したがって「答えがある」が正解となります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七

A2 知識 関係づけ

直前に書かれた「トレードオフ」という言葉に注目すると、「どれが良いとどれが悪くなる」という意味であることがわかります。これと合う内容ですから、ウが正解となります。

問八

1 **B1** 具体化 関係づけ

「ふしぎ」であるということは、何か理屈に合わないような点があるということでしょう。「狩りには参加できないような高齢者や傷病者」を助けることで群れのメンバーには負担がかかります。このことをふまえて「自然界」の説明になるような表現を探すと、——線⑦の十行後に「自然界は優れたものが生き残り、劣ったものは滅んでいくのが掟である」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 **B1** 理由 比較

(中略) 以降の文章では、人間は年老いた個体や傷病者をも集団の一員として受け入れることで、彼らの持つ「知恵」を

共有することを選んだ、ということが説明されています。したがって、ウが正解となります。ア「たがいに愛し合い助け合う」という人間の本来の姿を保つことができる、イ「他の動物を効率よく支配していく」、エ「法律や道徳や正義をつくり上げていくうえで助けとなった」がそれぞれ誤っています。

問九

B1 関係づけ 比較

ぬけている文をもとの場所にもどす問題です。ヒントはぬけている文自体にあります。指示語や接続語、キーワードに注目しながら、どのような内容が書かれた部分とぬけている文がつながるかを検討しましょう。また、必ず実際に文をもどして読み直し、内容的にふさわしいかどうかを確認しておきましょう。

「そのとき」という指示語が指す内容は、「ウ」直前の「何が有利かわからない」を指しています。「何が有利かわからない(から、) 答えをたくさん用意する」というつながりになっています。

問十

B2 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。本文のどの部分をもとに作られた選択肢かを考え、実際に本文にもどって照らし合わせ、正誤を判断しましょう。

ア「努力して苦手なことを作らないように」、ウ「将来人間にとつての正解が見つかる」と考えられる、エ「慈愛に満ち他者の気持ちを考えてることのできる人間」がそれぞれ誤っています。

3

A2 知識 比較

①～⑤の各文の空欄くうらんにあてはまるように、「～やか」という形の言葉を選ぶ問題です。それぞれの言葉の意味や、どのような場面で使うことが多いものなのかについて、しっかりと覚えておきましょう。

4

A1 知識

①～⑤の語について、対義語を語群から選んで漢字に書き直す問題です。使われている漢字ごとの意味と熟語全体の意味、どのような場面で使うことが多い言葉なのかという情報をまとめて覚えておきましょう。